

# 風土記の丘の花だより202

今、そしてこれから見られる植物(2023年9月9日)

朝夕、何となく「秋かなあ」と思うこともあります。昼間は相変わらず暑いですが、少しずつ秋に近づいていることを信じてみましょう。



前回はマルバハギを紹介しましたが、谷村家の登り口の左側でケハギも咲き始めました。「毛萩」という名前だけあって、茎や葉に細かい毛が生えているのが特徴です。マルバハギと違って、花が付く軸が長いので、名前が分からなくても「あれ？マルバハギとはちがうなあ」と気づくことでしょう。また、そのうちニシキハギやツクシハギなども咲き始めるので、順次紹介してまいります。ハギは秋の七草の一つ、これからだんだん秋らしくなって、季節が移っていくことでしょう。



小早川家の西側の庭にクルマバザクロソウの花が咲いています。名前はなんとなくいかめしいですが、花は小さく控えめです。茎もとても細いこんな小さな草、きっと普段は気にも留めずに踏みつけていることでしょうね。ただ、茎や花の割には葉が目立ちます。数枚の細長い葉が輪生しています。それで「車葉」と付いているのです。すると、「ただのザクロソウというのものもあるのか」と言いたくなりますね。あります。それは葉の数が少なく、半分ほどです。茎の細さや花の小ささはほとんど変わりません。



この花もとても小さいです。名前はキツネノマゴといいます。漢字では「狐の孫」。どのへんが狐の孫なのでしょう。諸説あるようですが、はっきりしません。夏の終わり頃から咲き始めるかわいい花ですが、なにしろ小さいのでほとんど目立たず、はっきり言って「見向きもされない雑草」となってしまうように思います。でも、ルーペをお持ちなら、花をじっくり観察してみてください。色合いといい、模様といい、構造といい、とても興味深いと思いますよ。



万葉植物園入り口の階段の右手のヌルデにこんな物がいくつも付いています。これは虫こぶの一種で、ヌルデミミフシとよばれるものです。虫こぶは虫癭(ちゅうえい)や、外国語でゴール(Gall)とも呼ばれます。昆虫が植物に産卵などの刺激を与えると、その部分が独特な形に肥大し虫こぶができます。この虫こぶは、ヌルデシロアブラムシという小さな虫の仕業です。いろいろな植物にいろいろな昆虫が独特な形の虫こぶを作ります。

松下